

第73回 埼玉県新型感染症専門家会議 概要

1. 日時：令和5年6月13日（火）16：00～17：00

2. 会場：第3庁舎講堂

3. 委員（敬称略 五十音順）

岡部 信彦	川崎市健康安全研究所 所長
金井 忠男	埼玉県医師会 会長
川名 明彦	防衛医科大学校 教授
坂木 晴世	国際医療福祉大学大学院 准教授
讃井 将満	自治医科大学 教授
竹田 晋浩	かわぐち心臓呼吸器病院 理事長・院長
光武 耕太郎	埼玉医科大学国際医療センター 教授
三村 喜宏	埼玉県商工会連合会 会長

4. 県側参加者

大野 元裕	知事
高田 直芳	教育長
犬飼 典久	危機管理防災部長
金子 直史	福祉部長
表 久仁和	保健医療部長
本多 麻夫	保健医療部 参事
目良 聡	産業労働部長
岸本 剛	衛生研究所 副所長
山口 隆司	感染症対策課長

5. 主な意見

ア 現状の分析・評価について

- 年齢別感染者数について、定点医療機関は小児科の数が多いため、必然的に小児の感染者の割合が高めに出してしまうことは念頭に入れておく必要がある。（岡部委員）
- 高齢者対策は、在宅・福祉施設への物品等の補助、研修などの知識面の支援がこれから必要ではないかと思う。（岡部委員、坂木委員）

イ 学校における学校閉鎖の事例について

- 体調不良時にきちんと休める環境を整えておくことが必要である。（岡部委員）
- 換気などの基本的な感染防止対策を行いながら、文化祭や体育祭などのイベントも含めて学校活動を継続していくことが望ましい。ただし、学校内でクラスターなどが起こった場合は、インフルエンザ等と同様に学級閉鎖などを行うことも必要である。（川名委員、坂木委員）

【県の対応】

- 体調不良時の登校自粛や医療機関の受診について、生徒及び保護者に対し周知を徹底する。また、学校内で感染拡大が確認された場合には、速やかに学級閉鎖など学校が必要な対策を講じられるよう対応していく。

ウ 埼玉県の対応について（7月以降のコロナ感染症入院患者への対応（案）について）

- 7月以降のコロナ感染症入院患者への対応（案）について、異議なし。（一同）
- #### 【県の対応】
- 軽症・中等症の病床確保は6月末までとし、重症の病床確保は、引き続き9月末まで行う。

エ 埼玉県の対応について（県民への呼びかけについて）

- 重症患者の多くは高齢者やワクチン未接種者であるため、ワクチン接種の呼びかけは継続していただきたい。（川名委員、竹田委員）
- #### 【県の対応】
- 体調不安や発熱など症状があるときの対応、基本的な感染防止対策の継続、高齢者や基礎疾患のある方への追加のワクチン接種を県民に対し呼びかける。